

虹芝寮祭:平成 30 年 10 月 27 日 (土) ~28 日 (日)

山小屋建築史—山岳建築としての山小屋の歴史—

平成 30 年 10 月 27 日 15:00— 虹芝寮

土本俊和 信州大学工学部建築学科教授

日本山岳会会員 (長野支部、山研委員)

## 0、山小屋建築史の研究者の願い

- ①山の安全安心のためにも山小屋を理解し、大切にしていきたい。
- ②山の環境保全のためにも山小屋を理解し、大切にしていきたい。
- ③山での様々な営みを伝える古い山小屋の価値を理解し、後世に伝えていきたい。
  - 山岳建築の調査研究が必要
  - 山岳建築の価値づけも必要

## 1、山岳建築を定義してみると

<山岳建築を、険しい地形から成る、標高の高い、歩いて登って行かなければならない土地にたつ建築と狭く限定された意味で定義することができる。>

- ①険しい地形／②高い標高／③歩いて登っていかねばならない土地
- 山岳建築は、①②③を備えた建築

## 2、自然から与えられた土地

<険しい地形から成る、標高の高い土地は、自然から与えられたものである。>

## 3、登山と道

<そこへ人々が歩いて登って行くと、道ができる。>

### 3-1 生産と結びついていない登山と道

山岳信仰と信仰による登山→山岳宗教建築  
純粋な登山としての近代登山→山小屋

### 3-2 生産と直に結びついている登山と道

山での生産 (木地師集落ほか)  
山での交易

## 4、道と山岳建築

人が歩いてできた様々な道と山岳建築

峠を超えていく道と山小屋

峠の小屋 (徳本峠小屋:長野県松本市上高地、…)、肩の小屋 (槍ヶ岳山荘、…)

古い道の必要性（上高地→徳本峠→島々→松本）

## 5、山岳建築の施工

5-1 自然から与えられたものを使う場合：山から原材料を得ていた

5-2 周囲に利用できる木材がない場合：里から歩荷で持ち上げるしかない

5-3 国立公園などの規制がある場合：里から歩荷で持ち上げなければならない

5-4 ヘリコプターが山に現れてから：

空輸が可能な場合；里（あるいは山の駐車場）からヘリで空輸

空輸が不可能な場合；里から歩荷で持ち上げなければならない

## 6、モータリゼーション

<モータリゼーションの結果、通行規制がなければ、山岳建築の入口まで自家用車で行けるようになった。>

このような場合、歩いて登っていく必要がなく、建築の施工も車を利用することができる。

## 7、通信の発達

## 8、建築設備の変化

8-1 もともと山岳建築は、水道管、ガス管、電線とつながっていない。

8-2 山岳建築が、水道管、ガス管、電線とつながる場合がある。

8-3 水、光、熱

## 9、古い山小屋の価値

価値1：険しい地形から成る、標高の高い、歩いて登って行かなければならない土地にたつ建築

価値2：山で原材料を得てできた建築

価値3：水道管、ガス管、電線とつながっていない建築

価値4：山でのいとなみを刻み、それを後世に伝える建築

価値5：人々が集う建築

## 10、原初へ戻る力